

2015年 小学館文庫 海外ミステリー隠し玉

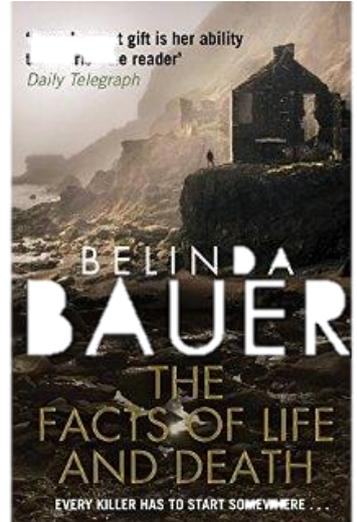
7月刊

『リトル・カウボーイ (仮題)』

THE FACTS OF LIFE AND DEATH

ベリンダ・パウアー 吉井智津/訳

デビュー作『ブラックランズ』でゴールドダガー賞を受賞したパウアーの第4作。英国デヴォン州で起きた、一人歩きの女性を狙った連続暴行殺人事件。民警団を立ち上げ犯人を追跡する父親を助けようとする10歳の少女の葛藤と、彼女を取り巻く人々の心模様を描く衝撃のサイコ・スリラー。



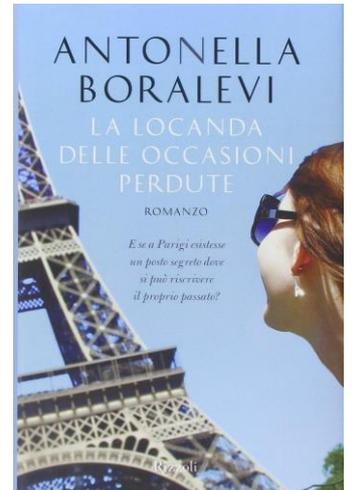
8月刊

『もしもを叶えるレストラン (仮題)』

LA LOCANDA DELLE OCCASIONI PERDUTE

アントネッラ・ボラレヴィ 中村浩子/訳

「もしもあ那时候、ああしていたら……」。"失われた人生のチャンス"を取り戻すことができるというパリの裏通りのレストランを舞台に、47歳の女性ミレッラの悔いと再生をイタリアの人気作家がファンタジックに描く、大人の恋愛ミステリー。



9月以降

『千里眼 (仮題)』

THE SHUT EYES

ベリンダ・パウアー 満園真木/訳

7月刊『リトル・カウボーイ』に続くパウアーの最新作。4か月前に4歳の息子が失踪し、悲嘆にくれるあまり精神のバランスを失いかけたアンナ。藁を持つかむ思いで霊能者に会いに行くが、その日から彼女にも不思議な光景が見えるようになり……。巧みな心理描写と怒濤のストーリー展開、感動のラストに乞うご期待！

『ディセント (仮題)』

DESCENT

ティム・ジョンストン 中谷友紀子/訳

O・ヘンリー賞、キャサリン・アン・ポーター賞などを受賞したYA作家の、初の本格ノベル。家族の絆を取り戻すための旅行中、大学進学を控えた娘が失踪し……。ロッキーマウンテンの自然を背景に、女性監禁事件と被害者の家族の苦しみ、再生を描いた感動作。

